

平成 29 年度～令和 2 年度  
東京都特別支援教育推進計画（第二期）・第一次実施計画に基づく  
特別支援学校における特別支援教育の充実事業指導資料

## 特別支援学校における国際理解教育の充実



令和3年3月

 東京都教育委員会

# 目次

## 特別支援学校における国際教育の充実事業

1	特別支援学校における国際理解教育、外国語教育とは	1 ページ
①	国際理解教育とは	1 ページ
②	特別支援学校における外国語教育	2 ページ
2	知的障害のある児童・生徒の外国語教育について	3・4 ページ
3	知的障害のある児童・生徒の外国語（英語）の具体例	5 ページ
	知的障害特別支援学校の外国語活動・外国語の題材及び学習活動の例	6 ページ
4	特別支援学校における実践事例	
	「世界の学習」	【国際理解教育】 7・8 ページ
	「えいごであそぼう」	【外国語活動】 9・10 ページ
	「身近な英語の表現 ～英語での挨拶を知ろう～」	【外国語】 11・12 ページ
	「身近な英語を覚えよう 方向」	【外国語】 13・14 ページ
	「Who is he (she)?」	【外国語】 15・16 ページ
	委員・事務局一覧	17 ページ

# 1

## 特別支援学校における国際理解教育、外国語教育とは

### ① 国際理解教育とは

社会の急速なグローバル化の進展の中で、現在、国際理解教育をこれまで以上に充実し、多様な文化や言語への理解を深めることで、国際社会で交流・活躍できる人材を育成・輩出していくことが求められています。

国際化が進展する中で、広い視野とともに、異文化に対する理解や異なる文化もつ人々と共に協調していく態度などを育成することは、子供たちにとって極めて重要なことです。こうした国際理解教育は、各教科、特別の教科 道徳、特別活動、総合的な学習の時間等を含めた学校の教育活動全体の中で取り組むことが大切です。その際、それぞれの教科等における学習の関連を常に意識するなど、国際理解教育の視点から授業に広がりや深まりをもたらすことが必要です。

特別支援学校においては、実際に起こっている身近な出来事や人との関りの中で事象を捉えたり、外国語やその背景にある文化について体験的に理解したりしていくように国際理解教育を進めることが重要です。そのため、都立特別支援学校では、オリンピック・パラリンピック教育、外国人英語等教育補助員の活用や TOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG) の活用等を行うとともに、外国語教育をこれまで以上に充実させ、多様な文化や言語への理解につながる国際理解教育が進められています。

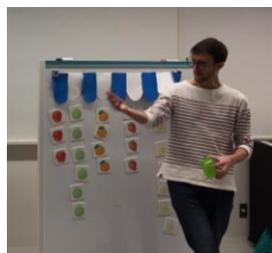
#### ◆都立特別支援学校で取り組まれている国際理解教育の例

##### オリンピック・パラリンピック教育（世界の給食）

給食メニューに各国の料理を導入し、その国の「面積、言語、人口、首都、通貨、世界遺産、料理・食べ物等」の情報をプリントで学級に配布し、外国文化への理解を深めています。



外国人英語等教育補助員（ALT）の活用  
外国の方と触れ合うことで文化や言語  
の違いを学習している。



TOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG) の活用  
外国語を使う場面を具体的に設定し、学習  
している。



## ② 特別支援学校における外国語教育

障害のある児童・生徒に対する外国語活動及び外国語の指導においては、小学校や中学校、高等学校に準じた指導を行いながらも、障害により困難な活動や学習内容について、取扱い方の工夫や配慮が必要です。例えば、聴覚障害のある児童・生徒に外国語の指導を行う場合は、「聞くこと」や「話すこと」に関する内容を扱う際には様々な手段（表情、ジェスチャー、手話等）を併用して理解を補うとともに、実際に児童・生徒が外国人と交流する際のコミュニケーション手段（筆記、ICT 機器の活用等）についても考慮し、より実践的な学びに結び付くような指導内容を検討する必要があります。

このように、特別支援学校における外国語教育では、各学校で児童・生徒の実態に応じた指導内容の精選や教材の工夫が行われていますが、その成果や作成した教材等は、校内で共有され、活用されていくことが望まれます。障害のある児童・生徒が外国語に触れ、外国語によるコミュニケーションを経験することなどにより、外国語の学習に意欲的に取り組み、効果的に学ぶための方策について共有できるようにする必要があります。



- ・ 障害のある児童・生徒への指導内容・方法の充実を図る必要がある。
- ・ 障害のある児童・生徒が興味・関心をもって取り組むことができる指導の手だてや教材等を共有できるように必要がある。

## 2

## 知的障害のある児童・生徒の外国語教育について

知的障害のある児童・生徒に対する外国語教育においては、個々の児童・生徒の知的障害の状態や学習状況に応じた指導が必要であるとともに、学んだことを実際の生活場面で生かせるようになるための指導の工夫が必要です。

また、障害のある児童・生徒に外国語を学ばせることや、外国語によるコミュニケーション力を向上させるためには、学習環境を整えつつ、指導内容や方法をさらに創意工夫する必要があります。例えば、具体的な題材や教材等について日常生活に関わりのある歌、ゲーム、クイズ等の活動等と組み合わせるなど、工夫や配慮が必要となります。

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領では、「知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校の小学部に就学する児童のうち、小学部の3段階に示す各教科又は外国語活動の内容を習得し目標を達成している者については、小学校学習指導要領第2章に示す各教科及び第4章に示す外国語活動の目標及び内容の一部を取り入れることができるものとする。」と明記されています。

学習指導要領の目標及び内容から段階別の外国語教育の考え方を以下のように整理しました。

### 段階別の外国語教育の考え方

	小学部 低学年	小学部 高学年	中学部	高等部
外国語（高）				外国語による コミュニケーション
外国語（中）	外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ			
外国語活動	外国語や外国文化に親しむ			
他の教科等	様々な人や文化と関わる			

・学部段階はおおよその目安であるため、児童・生徒の実態に応じた教育課程を編成する必要があります。

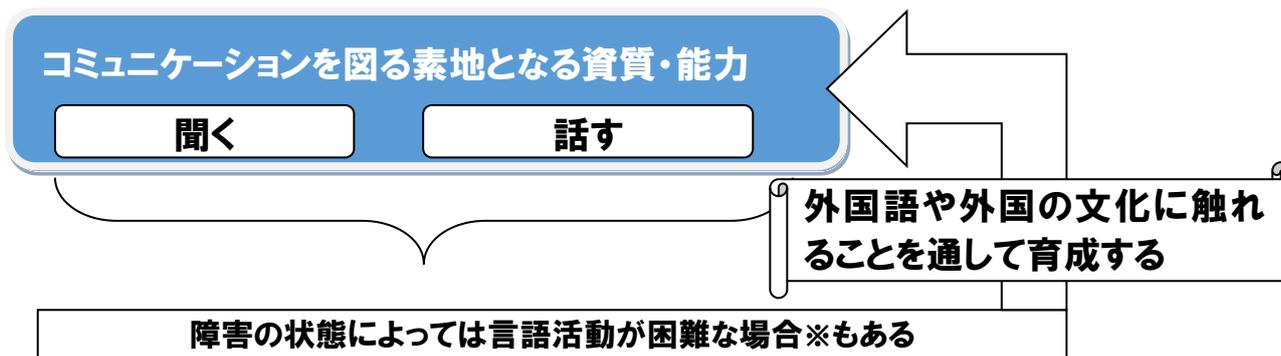
・小学部低学年では、外国だけでなく様々な人との関りを重視し、生活年齢に応じて関わりを広く広げていくように配慮する必要があります。

### 【参考】外国語活動の目標〔知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校〕

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語や外国の文化に触れることを通して、**コミュニケーションを図る素地となる資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語を用いた体験的な活動を通して、日本語と外国語の音声の違いなどに気付き、外国語の音声に慣れ親しむようにする。
- (2) 身近で簡単な事柄について、外国語に触れ、自分の気持ちを伝え合う力の素地を養う。
- (3) 外国語を通して、外国の文化などに触れながら、言語への関心を高め、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第4章第2款より抜粋



「コミュニケーションを図る素地となる資質・能力」については、「外国語や外国の文化に触れることを通して」育成することとしています。これは、児童の障害の状態によっては聞くこと、話すことの言語活動が困難である場合もあるため、外国語や外国の文化に触れることを通して育成するという視点が大切であり、音声によらない言語活動などの工夫をする必要があります。

知的障害のある児童においても、例えば、外国語の歌詞が一部含まれている歌を聞いたり、外国の生活の様子を紹介した映像を見たりするなど、日常生活の中で外国の言語や文化に触れる機会が増えてきています。このため、知的障害のある児童・生徒の国際理解教育、外国語教育は、知識だけを身に付けさせるのではなく、体験的に学ぶことを通して、

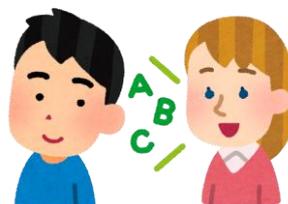
- 様々な人や文化に触れることで自分を知り、他者への理解を育む。
- 外国語等の学習で身に付けた成果を発揮し、学ぶ意欲や目的意識を高める。

ことを目指すとともに、それらを活用して新しいものの見方や考え方につなげていく必要があります。

このため、特別支援学校において、外国語の学習を通して国際理解教育を進めるに当たって特に必要な内容として、以下のように整理しました。



- 児童・生徒の実態に応じた様々な外国語や文化に触れる経験をする事。
- 児童・生徒が「外国語を使う必然性」のある活動とすること。



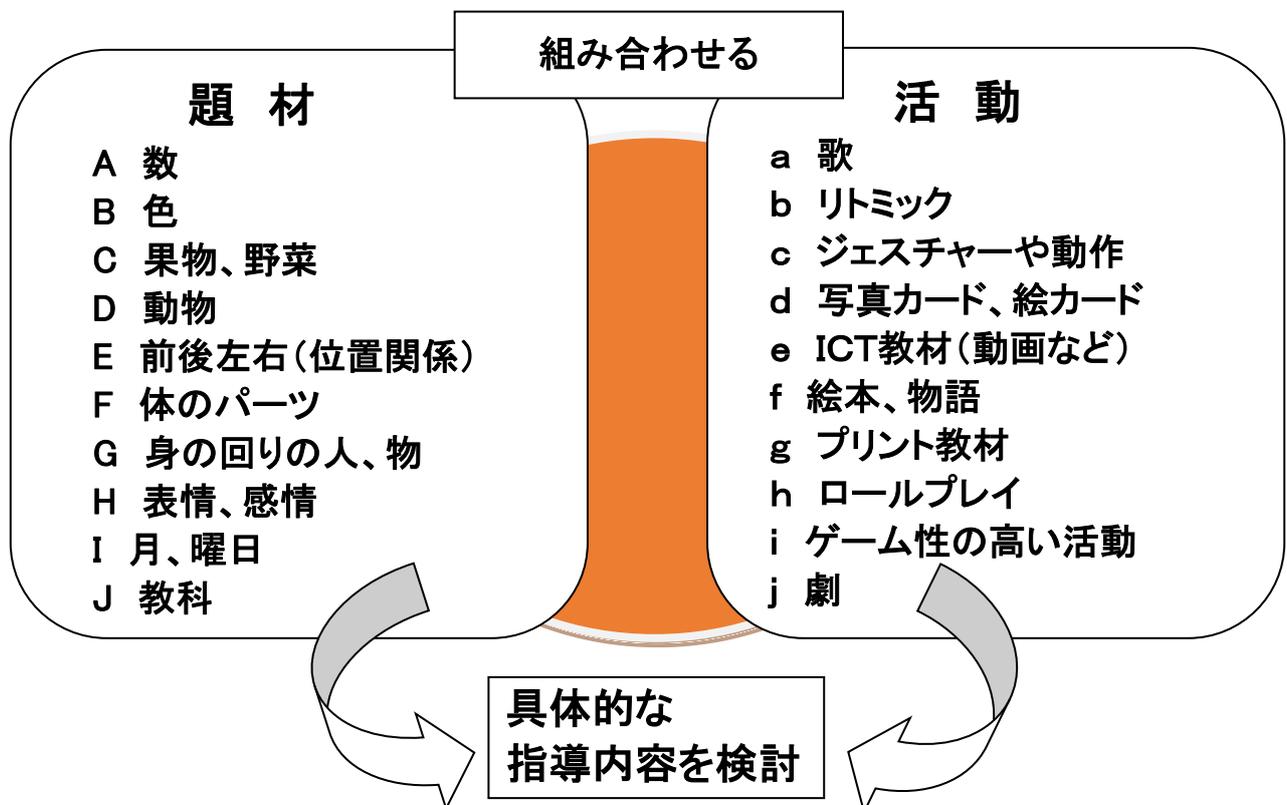
### 3

## 知的障害のある児童・生徒の外国語教育の具体例（英語）

知的障害のある児童・生徒の外国語活動及び、外国語の指導にあたっては、具体的な題材や教材等について、児童・生徒の実態に応じた工夫が必要になります。

そこで、児童・生徒の生活に身近な題材で興味・関心をもちやすく、生活に生かしやすい語彙や会話表現などを具体的な10の題材例として整理しました。題材にはそれぞれの単元等で取扱う「語彙」、「会話表現」を例示することで、より具体的な授業をイメージすることができます。また、活動例として9項目に整理し、取り扱う題材と学習活動を組み合わせるなどして、授業作りの参考となるようにしました。

本事業の研究指定校で、具体的な指導内容を検討する際に活用しました。その結果、興味・関心のあるものや日常生活と関わりのあるものなどを重視し、身近な題材とゲームやロールプレイ等の活動を組み合わせて単元等を構成することで、外国語教育、国際理解教育の充実した取組を行うことができました。研究指定校の実践事例も合わせて御参照ください。



※題材の例は、順序不同です。児童・生徒の興味・関心や学習内容に応じて選定する必要があります。  
 ※指導の方法は、学習指導要領の目標、内容に照らし、児童・生徒の発達段階等に応じて工夫する必要があります。

## 知的障害特別支援学校の外国語活動・外国語の題材及び学習活動の例(英語)

### 題材

- 児童・生徒がよく見たり、聞いたりする単語で、生活と結び付けて使用しやすい題材として、例示しています。
- 題材の例は、児童・生徒の興味・関心や学習内容に応じて選定してください。順序不同です。
- 指導の方法は、学習指導要領の目標、内容に照らし、児童・生徒の発達段階等に応じて工夫する必要があります。
- 言語活動では、会話表現の使用の目的・場面・状況を考えて設定してください。

	題材	語彙	会話表現	場面
A	数	one ~ ten, first ~ third	How many ~s do you have? — Two. What is Taro's class ?	いくつ持ってる? インタビューゲーム クラス当てゲーム
B	色	red, blue, green, yellow, black...	What color is the banana? — Yellow. Green... Find something green in this classroom.	色クイズ 色探しゲーム
C	果物、野菜	bananas, peaches, potatoes, onions, carrots...	I like ~. What color are these? — Orange.	好きな野菜や果物を選ぶ、表現する。 色と関連づけての学習。
D	動物	dog, cat, elephant, lion, bear...	What's this? — It's a zebra. How many legs does it have? — It has four legs.	部分を隠して、動物名を当てるゲーム What is this? 3ヒントゲーム、Who am I? なりきりゲーム
E	前後左右 (位置関係)	right, left, up, down go straight, go back, turn right, turn left...	Where is the Shinjuku station? Go straight. Stop. Here is the Tokyo station.	方向指示(絵や地図を見ながら) 道案内
F	体のパーツ	head, hand, leg, eye, mouth...	What's this? What's the matter? — I have a headache.	部位を伝える 体調不良を伝える
G	身の回りの人、物	I, You, She, He It, They...	Who is she/he? — She is my mother. Who is this? — this is my father.	コミュニケーション時に必ず使う語彙 家族や友達の紹介
H	表情、感情	happy, sad, angry, good, hungry...	How do you feel? — I'm ~.	顔文字当てクイズ どんな時、どんな気持ち?
I	月、曜日	Monday, Tuesday, Wednesday, Thursday... January, February, March, April...	What day is it today? What's the date today? — It's ...	曜日、日にちを伝える カレンダー、スケジュール
J	教科	Japanese, math(mathematics), science, art...	What subject do you like? — I like ... What is the subject at/of the 3rd period today?	好きな教科 一日のスケジュールや予定

### 学習活動

- 児童・生徒の興味・関心や学習内容に応じて、以下の学習活動から選定したり、組み合わせるなどして活用してください。

#### 歌、身体表現など

a	・歌
b	・リトミック
c	・ジャスチャーや動作
語彙(教材の活用)など	
d	・写真カード、絵カード
e	・ICT教材(動画など)
f	・絵本、物語
g	・プリント教材
会話を使った活動など	
h	・ロールプレイ(挨拶、自己紹介、買い物、食事、道案内、旅行など)
i	・ゲーム性の高い活動(マッチングゲーム、仲間探しゲーム、インフォメーションギャップ)
j	・劇